

インドネシア・カンブノ島の海洋プラスチックゴミ問題に 対する実践型環境教育の推進とその担い手育成 - 海藻養殖にみる持続可能な発展戦略としてのブルーエコノミーの可能性 -

活動地域  インドネシア



「環境にやさしい漁業」のワークショップ

課題

カンブノ島ではダイナマイト漁による漁獲量減少と海洋ゴミ問題を抱えている。島の住民が主体となり、海の環境を守りながら経済発展を目指すための将来ビジョンを構築する。

目標

主な生業（海藻養殖）を取り巻く現状や地域課題を共有し、島嶼部としての新たな生存戦略を議論するなかで、次世代若者を島の持続可能な社会の担い手として育成する。



今後の
展望

2022年度に構築された島の将来ビジョンに向けた実践活動として、海藻養殖から流出するプラスチック削減のための技術研修、ダイナマイト漁による劣化した海域にルンポン（漁礁）を設置し漁獲量回復を目指す。

はじめる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- 現地の青年団を対象にしたファシリテーション研修を通して、カンブノ島の課題を日本の専門家と共有するとともに解決策を議論
- ファシリテーション研修成果をもとにカンブノ島住民を対象としたワークショップを実施。住民の要望をもとに「環境にやさしい漁業」「地域ブランディング」「地域の魅力とエコツーリズム」の3テーマに分け、計6回実施
- 青年団主催でカンブノ島クリーン作戦イベントを企画・実施
- 成果発表の場として、3月28日・29日の2日間にわたって政府・教育機関と連携したシンポジウムを開催



「地域ブランディング」のワークショップ

持続可能な島づくりの
担い手育成

10人

ワークショップ参加者
の延べ人数

138人

今年度計画の達成度

100%

全体計画の達成度

90%

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

電気やWi-Fi環境が悪く、リモート会議が難しい。参加者も漁業者であり、集まる日時決定が難しく何度も日程調整を必要とした。

■ 工夫した点

何度も現場と調整し、最終的にワークショップの日時を決めず状況に応じて人が集まるタイミングで行う等柔軟に対応した。

〒606-8227

京都府京都市左京区
田中里ノ前町21 石川ビル305

市民環境研究所

HP : <http://asialivelihood.net>

